

令和4年度 事業報告

一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構



目 次

令和4年度 事業報告

1 令和4年度 一般報告

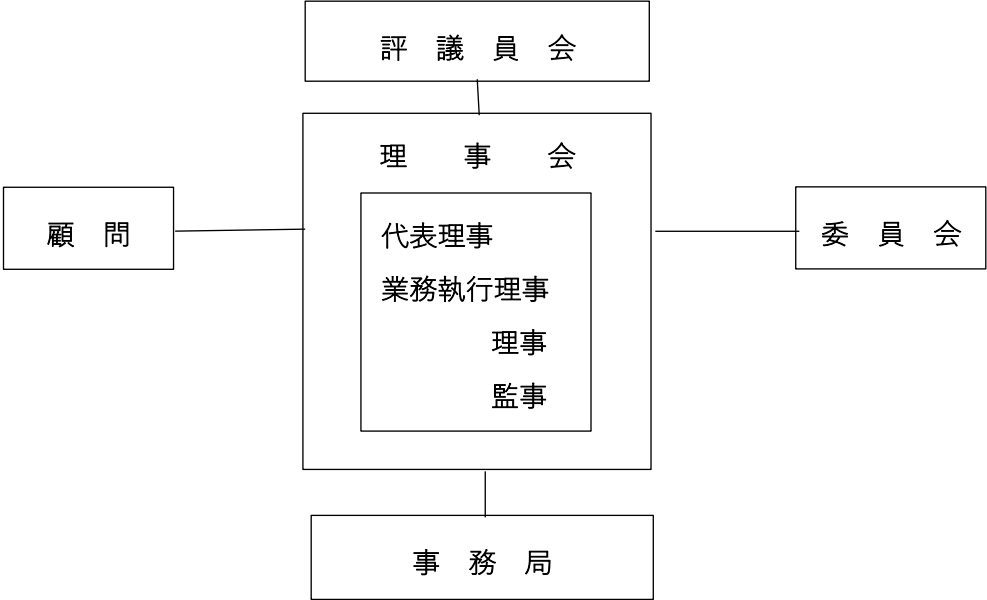
- (1) 組 織（評議員、役員、顧問、委員会、事務局）
- (2) 賛助会員
- (3) 会 議 等
- (4) そ の 他

2 令和4年度 事業報告

- (1) 情報発信・広報に関する事業
- (2) 啓発活動に関する事業
- (3) 防災・伝承ツーリズムに関する事業
- (4) 防災に関する事業
- (5) その他（受託事業）

1. 令和4年度 一 般 報 告

(1) 組 織



ア 評議員

役 職	常勤・非常勤別	氏 名	勤 務 先 及 び 役 職 名
評 議 員	非 常 勤	海 輪 誠	一般社団法人東北経済連合会 会長
	(6月29日就任)	増 子 次 郎	同上 (交代による)
評 議 員	非 常 勤	鎌 田 宏	東北六県商工会議所連合会 会長
	(11月16日就任)	藤 崎 三 郎 助	同上 (交代による)
評 議 員	非 常 勤	千 葉 嘉 春	東北建設業協会連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	渥 美 雅 裕	一般社団法人東北地域づくり協会 理事長

イ 理事・監事

役 職	常勤・非常勤別	氏 名	勤 務 先 及 び 役 職 名
代 表 理 事	非 常 勤	今 村 文 彦	東北大学災害科学国際研究所所長
業務執行理事	常 勤	原 田 吉 信	一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構
理 事	非 常 勤	涌 井 史 郎	東京都市大学 特別教授
理 事	非 常 勤	片 岡 俊 一	弘前大学 教授
理 事	非 常 勤	南 正 昭	岩手大学 教授
理 事	非 常 勤	小 沢 喜 仁	福島大学 教授
理 事	非 常 勤	徳 山 日 出 男	政策研究大学院大学 客員教授
理 事	非 常 勤	紺 野 純 一	一般社団法人東北観光推進機構 理事長
理 事	非 常 勤	村 上 晃 史	一般社団法人日本旅行業協会東北支部長
理 事	非 常 勤	宮 本 健 也	青森県県土整備部長
理 事	非 常 勤	佐 藤 隆 浩	岩手県復興局長
理 事	非 常 勤	佐 藤 達 哉	宮城県震災復興・企画部長
理 事	非 常 勤	橘 清 司	福島県企画調整部長
理 事	非 常 勤	梅 内 淳	仙台市まちづくり政策局長
監 事	非 常 勤	松 岡 基 嗣	日本政策投資銀行 東北支店長
監 事	非 常 勤	古 里 直 美	河北新報社防災・教育室 部長

ウ 顧 問

役 職	職 名	氏 名
顧 問	青 森 県 知 事	三 村 申 吾
顧 問	岩 手 県 知 事	達 増 拓 也
顧 問	宮 城 県 知 事	村 井 嘉 浩
顧 問	秋 田 県 知 事	佐 竹 敬 久
顧 問	山 形 県 知 事	吉 村 美 栄 子
顧 問	福 島 県 知 事	内 堀 雅 雄
顧 問	仙 台 市 長	郡 和 子
顧 問	学 都 仙 台 コ ン ソ ー シ ャ ム 会 長	高 柳 元 明

顧問	東北地方整備局長	山本 巧
顧問	東北運輸局長	田中 由紀

エ 委員会

伝承ロードアドバイザー委員会		
役 職	職 名	氏 名
委員長	東北大学災害科学国際研究所 准教授	佐藤 翔輔
委員	一般社団法人東北観光推進機構 理事長	紺野 純一
委員	一般社団法人日本旅行業協会 東北支部長	村上 晃史
委員	青森県県土整備部 都市計画課長	田中 秀樹
委員	岩手県復興防災部 復興推進課総括課長	澤田 彰弘
委員	宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課長	小嶋 淳一
委員	福島県土木部 土木企画課長	芳賀 英幸
委員	仙台市まちづくり政策局 震災復興メリアル事業担当課長	田中 智洋
委員	東北地方整備局 企画部長	中平 善伸
委員	東北運輸局 観光部長	鈴木 邦夫

オ 事務局

住所	〒980-0014 仙台市青葉区本町三丁目 2-26
人員	業務執行理事 1 名、職員 4 名 計 5 名

(2) 賛助会員

区分	会 員 数			口 数		
	令和 4 年度	令和 3 年度	増減	令和 4 年度	令和 3 年度	増減
法人会員	20	17	増 3	29	23	増 6
個人会員	94	65	増 29	211	157	増 54

(3) 会議

ア 評議員会

区 分	開催日、開催場所	議事の内容
第 1 回臨時	令和 4 年 4 月 25 日 (みなし評議員会)	【第 1 号議案】 理事と監事の選任 理事 2 名、監事 1 名の更新手続き
第 1 回定時	令和 4 年 6 月 29 日 メトロポリタン仙台	【第 1 号報告】 令和 3 年度 事業報告 (1) 一般報告 (2) 事業報告 【第 2 号報告】 令和 4 年度 事業計画及び収支予算書 (1) 事業計画 (2) 収支予算書 【第 3 号報告】 令和 4 年度 異動に伴う理事・監事の選任 【第 1 号議案】 令和 3 年度 計算書類の件について (1) 財務諸表 (2) 監査報告 【第 2 号議案】 監事の選任の件 【第 3 号議案】 役員の追加の件 【第 4 号議案】 評議員の選任の件

イ 理事会

区 分	開催日、開催場所	議 事 の 内 容
第 1 回	令和 4 年 6 月 1 日 ハーネル仙台	【第 1 号議案】 令和 3 年度事業報告及び計算書類の件 【第 2 号議案】 顧問の委嘱について 【第 3 号議案】 役員の追加について 【第 1 号報告】 理事・監事後任の選任について
第 2 回	令和 5 年 3 月 28 日 ハーネル仙台	【第 1 号議案】 令和 5 年度 事業計画 【第 2 号議案】 令和 5 年度 収支予算書 【報告事項】 財政基盤について

ウ 委員会等

1. 伝承ロードアドバイザー委員会

区分	開催日、開催場所	議 事 の 内 容
第 1 回	令和 4 年 5 月 18 日 仙都会館	(1) 伝承ロード研修会や受託事業におけるツアー等のアンケート結果 (2) 令和 3 年度 震災伝承ネットワーク協議会の開催報告 (3) 情報提供

2. その他

機構が主催した主な会議やイベントは下記のとおり。

開催日、開催場所	取組項目	概 要 等
1) 令和4年5月18日 NTT 東日本青葉通ビル 1F スマートイノベーションギャラリー	第3回「映像アーカイブ事業」 映像試写会及び認定証交付式	概要:映像アーカイブ事業の第3回目の認定作品2本の試写会と認定証交付式を実施 ○第004号認定作品 若生工業(株) 「ふるさとに笑顔を取り戻す」 ○第005号認定作品 熱海建設(株) 「ワンチームで地元を守れ！」
2) 令和4年10月13日 NTT 東日本青葉通ビル 1F スマートイノベーションギャラリー	第4回「映像アーカイブ事業」 映像試写会及び認定証交付式	概要:映像アーカイブ事業の第4回目の認定作品2本の試写会と認定証交付式を実施 ○第006号認定作品 前田道路(株) 「仙台空港を啓開せよ！」 ○第007号認定作品 東亜建設工業(株) 「気仙大橋を通せ！」
3) 令和4年12月1日 NTT 東日本青葉通ビル 1F スマートイノベーションギャラリー	第5回「映像アーカイブ事業」 映像試写会及び認定証交付式	概要:映像アーカイブ事業の第5回目の認定作品2本の試写会と認定証交付式を実施 ○第008号認定作品 (一社)日本埋立浚渫協会 「航路を啓け！緊急物資と燃料を届けろ！」 ○第009号認定作品 (一社)日本埋立浚渫協会 「津波から市民の命と財産を守るために～釜石港湾口防波堤災害復旧工事編～」

4) 令和 4 年 7 月 7 日 道路協会会議室(東京)	在京事業懇談会 参加者：5 団体 6 名	概要：在京の寄付者である建設業関係 5 団体を対象にした事業説明会 ○説明概要 ・ 令和 3 年度事業報告 ・ 令和 4 年度主な事業説明 ・ 映像アーカイブ事業映写紹介
5) 令和 4 年 7 月 28 日 ハーネル仙台	在仙事業懇談会 参加者：34 名 来賓：東北地方整備局中平企画部長	概要：在仙の寄付者や賛助会員向けの事業説明会 ○説明概要 ・ 令和 3 年度事業報告 ・ 令和 4 年度の主な事業説明 ・ 映像アーカイブ事業映写紹介
6) 令和 4 年 10 月 19 日 仙都会館	令和 4 年度インフラ語り部説明会 参加者数 応募のあった語り部希望者 28 名 来賓：国土交通省東北地方整備局中平企画部長	概要：建設関係業務に従事した役所や企業の OB を対象に東日本大震災の復旧・復興等における貴重な体験や知見を語り継ぐインフラ語り部の確保を目的とした説明会 ○説明事項 ・ 3.11 伝承ロード推進機構の活動について ・ 語り部（インフラ部門）の活動について ・ 今後の活動
7) 令和 4 年 11 月 22 日 東松島市	インフラ語り部現地研修会 語り部 15 名 参加	概要：語り部の実戦に向けて、実際に語り部の話を聞く現地セミナーを開催した。 ○語り部 SAYS'東松島 語り部 山縣嘉恵

(4) その他（寄付金の受入について）

次の法人等から寄付金によるご支援をいただきました。

令和4年度	主な法人等
寄付金	(一社)道路建設業協会 外 13 法人(団体を含む)
	ヤフーネット募金 143 千円

2. 令和4年度 事業報告

(1) 情報発信・広報に関する事業

イ ホームページの充実・強化

ホームページは、組織発足直後の令和元年9月に立ち上げ、より見やすくわかりやすく、多くの方に視聴できるように、令和2年度に英語版やスマートフォン対応やFacebookの開設を行った。令和3年度においては、archiveやmovieサイトの追加とともに、コロナ禍における震災伝承施設の閉館情報などタイムリーな情報提供に努めた。令和4年度では映像アーカイブ事業の映像紹介、ラジオ放送の音声アーカイブ、機関誌等のコンテンツの充実を図った。

ロ 伝承ロードマップの更新等

伝承ロードマップは、震災伝承ネットワーク協議会による震災伝承施設の追加を踏まえ4月に更新を行い、8月に増刷を実施し、震災伝承施設等のニーズに応えた。また、12月の台湾へのセールスコールのために中国語版(繁体語版)の作成を行った。

第3分類震災伝承施設や食や祭り等の観光資源をイラスト化したマップは、被災地への訪問機会の増加と滞在期間を長くする狙いで令和3年度に作成しているが、これについても施設数の増加に対応して更新を行った。また、繁体語版も作成した。

ハ 機関誌、メルマガの発行 他

機関誌は、「人と人を繋ぎ、被災地を結ぶ。」ことを狙いとして、人から人へ伝える「縁」が大切との観点から、人の縁を中心に据えて、震災伝承施設の取り組みや、伝承活動を紹介する機関誌を令和3年12月に刊行した。以後年4回の発行する季刊紙として発行している。配布先は、震災伝承施設、賛助会員、寄付者、道の駅、東北6県の東京アンテナショップ等に3千部配布している。

メルマガについては、当機構の取り組みや伝承活動の紹介として、伝承ロード

研修会、防災・伝承セミナーやパネル展等の状況などを、機構関係者、賛助会員、寄付者、語り部等約 280 人に対して配信している。

ニ ラジオによる広報活動

令和 3 年度からラジオを活用した広報を実施している。目的は東日本大震災の風化防止の観点から東日本大震災の真実や教訓を振り返る番組を作成し、被災 4 県（青森、岩手、宮城、福島）のラジオリスナー向けに放送している。

令和 4 年度は、企業・団体の活動に焦点をあて、震災活動としての社会貢献を明らかにするために「あの日の使命感」と題して放送した。放送した団体は石巻消防本部、東北電力、福島県警察本部、岩手県建設会社、除染ボランティアの 5 団体である。放送は 2 月の第 1 週から 3 月第 1 週まで 5 回の番組を放送した。

（２） 啓発活動に関する事業

イ 防災・伝承セミナーの開催

3.11 伝承ロードの取り組みや震災伝承の意義や役割を広く伝えるために、令和 2 年度から被災 4 県持ち回りで防災・伝承セミナーを開催している。令和 4 年度は第 3 回目として、11 月 7 日（月）に岩手県宮古市の市民交流センターを会場に開催した。コロナ禍の影響を考慮し、オンラインでも視聴可能とした。約 300 名もの聴講者があり、盛況だった。

ロ パネル展の実施

3.11 伝承ロードの周知と理解促進とともに、東日本大震災の記憶や経験を忘れずに後世に伝承するため、東日本大震災の実情と教訓等を紹介するパネル展を震災伝承施設や他の記念館等で実施した。

令和 4 年度は被災 3 県その他、秋田県と山形県を含め 6 箇所で開催し、延べ 147 日間、1 万人を越える見学者があった。

ハ 災害（震災）伝承検定に向けた検討

災害に裏付けられた事実と教訓を理解し、災害を自分ごと化し、伝え受け継ぐことが重要である。災害に関する知識の習得を通じて、災害への関心を高め防災意識の向上に寄与するために、災害（震災）伝承検定に向けた検討を実施した。

検討にあたっては、学識者、行政、マスコミ、語り部等で構成する「災害・震災伝承あり方検討会」を立ち上げて、議論を行い、災害伝承検定に関する全体フレームを提示し、検定のあり方（案）について実施の可能性やアイデア、パターンを中間整理案として整理した。

ニ イベント等のブース出展

○仙台防災未来フォーラム 2023

令和5年3月4日（土）に仙台国際センター展示棟を会場に、テーマを「ここから広げる 防災が身近な世界と未来」として仙台市が主催した。来場者数は全体で約3,000人、出展ブース71団体、ブース来場者数約350人と多くの人が来場した。

展示は、「3.11 伝承ロード」の取り組みを紹介するとともに、震災伝承施設を紹介した。また、災害直後に建設業界が果たした復旧・復興事業の様子を可視化した「映像アーカイブ事業」作品を上映した。

○第3回世界防災フォーラム

令和5年3月10日（金）～12日（日）の3日間、仙台国際センター展示棟をメイン会場に「World BOSAI Forum／防災ダボス会議@仙台 2023」が開催されました。当機構もブース出展を行い、活動内容を展示した。

今回の World BOSAI Forum には、World BOSAI EXPO 含め、3日間で32カ国から延べ5,412名が参加した。また、3月11日には、急遽、谷内閣府特命担当大臣が当機構の出展ブースを見学され、代表理事の今村先生が対応しました。

出展にあたっては、伝承ロードマップの紹介を中心に、事業説明のパネル展示

及びマップの配布を行った。

(3) 防災・伝承ツーリズムに関する事業

イ 企業・団体向けの伝承ロード研修会の実施

東日本大震災の被災地にある震災伝承施設や復興状況等を巡り、震災の実情や教訓を学ぶ企業・団体向けの研修を令和元年度から伝承ロード研修会として実施しているが、令和4年度は26件の研修会の申込みがあったが、3件が中止になったものの、ウィズコロナの流れで23件の研修会を開催し、令和3年度の8件から約3倍増となった。

ロ 旅行業者との連携

旅行業者の知恵やノウハウを活用し、震災伝承施設への入場者数の増加を図るため、仙台市内の旅行業者等で構成する「伝承ツーリズム連絡会」を令和2年度から行っている。

令和4年度は8月に開催し、令和3年度に実施した伝承ロード研修会アンケート調査結果や、4年度に実施する観光庁「看板商品創出事業採択事業」東松島伝承ロードバス事業や(一財)国土計画協会の受託事業の「3.11 伝承ロード New Destination プラン」の紹介とともに、アーカイブ映像(熱海建設(株)編)を紹介し、意見交換を行った。

ハ 台湾における訪日プロモーション事業

台湾からの教育旅行を誘致し、震災伝承施設への来訪者増加を推進するため、令和4年12月14日(水)～17日(土)4日間で、台北市の高等学校及び訪日団体旅行を販売する旅行会社を訪問し、東日本大震災の被災地にある震災伝承施設の教育的価値を伝えるとともに、「日本東北遊楽日」開催前日のBtoBセミナー・商談会に参加し、3.11伝承ロードのプロモーション活動を行った。

(4) 伝承に関する事業

イ 東日本大震災 10 周年企画 映像アーカイブ事業

令和 2 年度から震災の記憶・記録の見える化の一環として、東日本大震災の復旧・復興で活躍した建設業界の働きを震災のレガシーとして残すために「映像アーカイブ事業」を行っている。震災直後の道路啓開や津波の排水作業などは、警察・消防の人命救助以前の緊急作業として行い、孤立した避難所への緊急物資の輸送にも大きな貢献を果たした。また、過去に例を見ないスピードで復旧・復興事業に尽力した建設業界の働きは、様々な知見や技術を駆使して行ったもので、震災から 10 周年という節目を契機に、これらの活動を可視化し、映像に編集し建設業界の社会貢献を明らかにする事業である。

令和 4 年度は 4 本の映像を作成し、試写会及び認定証交付式を 3 回行った。

ロ オンライン・防災学習プログラム

令和 3 年度に学生向けスタディツアーの検討の一環として、川崎町立富岡中学校を対象としてオンライン防災学習プログラムを実施したが、令和 4 年度においては希望する中学校が見当たらず実施できなかったことから、公益財団法人東北活性化研修センターの 2023 年版の東北わくわくスクールに登録し、希望学校を募ることとした。

ハ インフラ語り部

東日本大震災における震災対応とその後の復旧・復興の体験、災害時における復旧等の経験等を語り継ぐため、企業や行政等の OB を対象としたインフラの語り部制度を平成 2 年度構築し、伝承ロード研修会等において活用している。

これまで 53 名が登録し、実績として、令和 2 年度 2 回、令和 3 年度 4 回、令和 4 年度 2 回研修会で活用している。

一方、スキルアップのために、令和 4 年度は東松島市の伝承施設等において、実際に語り部の話を聞く現地セミナーを開催した。

(5) その他事業（受託事業等）

イ 「3.11 伝承ロード New Destination プラン」（一財）国土計画協会支援事業

この事業は東日本大震災からの 10 年を契機に、新たな復興ステージのアクションとして「三陸沿岸道路（＝青森県八戸市から宮城県仙台市までを結ぶ全 359km の高規格道路）を活用して、各地の観光コンテンツと震災伝承施設を融合させ、三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来志向の地域活性化を図る」事業で、三陸沿岸地域の新たな観光ルート開発に向け、より価値の高いコンテンツと周遊プログラムのあり方を模索し、持続可能な事業環境のあり方を検討しながら、官民（旅行事業者、地元観光関連事業者、当該自治体等）連携による環境づくりを強化するために、①新たな周遊ルート開発可能性調査、②モデルルートでのモニターツアーの実施、③三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力を伝える情報発信の 3 つを実施することになっている。

令和 4 年度においては、①新たな周遊ルート開発可能性調査を進めるために、観光事業者・交通事業者、震災伝承施設関係者、道の駅駅長等による三陸沿岸道路エリア活性化検討会を 2 回開催し、モデルルートの調査を開始した。

ロ 「東松島伝承ロードバス事業」観光庁看板商品創出事業採択事業

東日本大震災の津波被害に見舞われた東松島市では復興事業が終了し、復興後の東松島を創生する様々な取り組みを実施しているが、野蒜ヶ丘団地等の復興事業の観光コンテンツ化を図り、周辺の歴史・文化・観光施設、アクティビティ、東日本大震災復興伝承館や震災遺構も含めたストーリー性のある持続可能な周遊プログラムを造成し、観光需要を創出する東松島伝承ロードバス事業を実施した。

主な取組として、復興ストーリーとシナリオ作成を 3 本作成し、アーカイブ映像作成、周遊プログラム作成、モニターツアーの実施、WEB サイトを構築し商品の販売を旅行事業者と連携し、実施した。